

5 Reasons Why Christians Go Through Trails

『クリスマンが試練に遭う 5つの理由』

カルバリーチャペル メルボルン (オーストラリア) にてメッセージ 2014/06/18 公開

パート3 : <https://youtu.be/OqYLt1qmxWI>

パート4 : <https://youtu.be/YxjXEVh-VHY>

.....
このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まるようとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

【どうして神は、敵が我々に噛みつくのを許されるのか。】

エレミヤ書 29 章 11 節

主よ、あなたは私たちの心をご覧になり、私たちに必要なものを全てご存知です。

そして主よ、あなたは私たちのいのちに、私たちが聞くべきことを語りかけて下さいます。ですから主よ、私たちはもう一度立ち止まり、心から祈ります。

私たちに聖霊の語りかけを聞く耳を与えて下さい。

私たち一人ひとりに。今日、この場所で、今この時に。

この集会を離れる時には、私たちの光が明るく輝くように。

私たちを通して、あなたの力が溢れ出るように。

あなたの輝くいのちの光を、私たちを通して人々が見るように。

父と子の栄光のために。この時間を祝福して下さい。

あなたにしかできない方法で、祝福をお与え下さい。

イエスの御名によってお祈りします。アーメン

パートIII IDENTIFICATION 『一体化』

主はどうして蛇の攻撃を許したり、嵐や炎に私たちを襲わせるのか。

第1「観察」 周りの人が見ているから。攻撃される様を見せる。

彼らは、あなたがなぜ、今しているようなことをするのかを見て考えを変えるでしょう。

第2「目的地」 主は、あなたや私を違う場所へ導こうとされる。

そのために嵐が起こることも許される。

そこでは、それまで想像もしなかったほどに、光り輝くことができます。

3番目の理由は、IDENTIFICATION「一体化」

A. W. トーザーの言葉は本当です。（*Aiden Wilson Tozer 1897-1963 アメリカの牧師 クリスマン・アンド・ミッショナリー・アライアンス）

「神に最大限用いられる前に、人は、深く傷つくことも受け入れなければならない。」

なぜか。それは、あなたにどれほど知識があっても、心がない限り人には伝わらないから。その思いは、自分で経験して初めて生まれてくるのです。

経験とは、その人が直面している経験です。

マルタ島の人たちも蛇に噛まれたことがあり、家族や周りの人が死ぬのを体験し、蛇が人を噛み、集落が悲しみに暮れるのを見てきました。

人間は、他者に心から同情することはできないんです。

私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にも慰めることができるのです。

(IIコリント 1:3 - 4)

「どのような苦しみの時にも、私たちに慰めて下さる神がほめたたえられますように。」とパウロは言いました。

そのことによって私たちが楽になるのではなく、私たちの慰めとなるために。

自分が慰められた経験がないならば、人を慰めることはできません。

そして、辛い経験をせずして、慰められることはありません。

だから、他の誰かを噛んだ蛇に、私自身も噛まれる必要があるのです。あなたもそう。

自分がその人たちと同じように打ちのめされ、同じ傷を負わない限り、彼らの痛みを本当に知ることはできないのです。

どれだけ知識があっても、心がなければ人には伝わらない。

自分がその立場にならなければ、心からの共感はできません。

あの日、私はデンバーにいて、土曜日の夜遅く、オレゴンに戻る飛行機を待っていました。カウンターの向こうから名前を呼ばれたので行くと、「大変申し訳ございませんが、座席に空きがありませんので、翌朝の飛行機でお願いします。お金はお支払いしますから。」

「それはできません。私は牧師で、明朝5つの礼拝があるから、今夜、絶対に帰らないといけません。絶対に。」

すると彼は何かを調べて「ファーストクラスになりますが、よろしいですか？」

「もちろん！」(爆笑)

それで、私はファーストクラスに乗り込んで、レザーシートに無料ヘッドホン、スリッパに、それから食べることができる（美味しい）料理！

あれはすごかった。ワクワクしましたね。その上、隣は空席！ 間もなくドアが閉じられ、いよいよ出発。

「何という祝福！ 主よ、ありがとうございます！」

その時、ドアが閉まる直前に、事が起こったんです。彼女が乗って来た。

なにも、差別をするつもりはないんですよ。

でも、彼女が搭乗してきた時、私は「右へ。エコノミークラスに行ってくれ。右、右、右、右。」だけど彼女は、ファーストクラスがある左側を見て、そのまま、まっすぐ唯一の空席に向かって来た。そこは、まさしく私の隣。「私の席ね。」と彼女が言うのを確かに聞きました。

いいですか。悪気はありませんよ。これは今回の話の要点でして…。

彼女は…今までに見たこともないような巨漢だったのです。普通感覚ではなく、惑星規模の、彼女自身が郵便番号となるサイズ（広域都市の面積）。(*爆笑)

冗談を言っているのではなくて本当なんです。標準体重の50~60kgオーバーどころではない。地球規模の大きさの彼女が隣に座った。(*爆笑)

それで、私が座っている席が空いていたワケが分かりました。彼女には二人分の座席が必要だったから空けてあったんです。でも、私がそこに座った。

私は窓に押し付けられ、彼女の体の半分は通路に、半分は私の席に、とにかく全体を占拠している。それからほどなくして離陸しました。

するとこちらを見て、「ご結婚されているのですか？」

だから私は写真を見せて、「これが妻のタミー、これがピーター・ジョン、これがジェシー、これがクリステイ、これがメアリー・エリザベス、これがベンジャミン、これが犬のサムです。」と言いながら彼女を見ると、その大きな頬に涙が流れている。

「ダイアン…」その前に彼女は自己紹介していて、どっちみち、体は私の席にはみ出しています。(*爆笑)

「ダイアン。何か悪い事を言ったのなら、ごめんなさい。」

「違うんです。あなたは本当にラッキーよ。5人も子供さんがいて、きれいな奥さんも。全て私が欲しかったものなの。結婚して母親になること、それがずっと夢だった。私、絶対に良いお母さんになれると思うの。頭もいいし、センスもあるし、なんだって作れるし。楽しいことも大好きで、色んなことができるのよ。でも…ご覧の通り、少し太っていて…」

どう答えればいい!? それで私は「Oh？」と。(*爆笑)

ダイアンは「誰も結婚してくれなくて。私は絶対に良いお母さんになれるのに。」

そう言って泣くのです。続けて、「2年前、私の良さを分かってくれる男性が現れて、プロポーズしてくれたの。私の内面を見て、結婚したいって言ってくれたのよ。」そして「結婚式の前夜、打ち合わせをしに教会へ向かっていた時、電信柱に激突している彼の車が目に入った。私が通り過ぎようとした目の前で、彼は車から出されて、その夜、死んでしまったわ。こんなこと、言うつもりはなかったのに。暗い話をして、ごめんなさいね。」

私は「ダイアン、その気持ち、分かるよ。話してくれてありがとう。」と言って、あの日のことを話しました。

あれは、月曜日の朝でした。私は妻をスキーに連れて行きました。まだ夜明け前で誰もおらず、山へ続くハイウェイ、山道を運転しながら、ジョークを言って一緒に笑った。

その時、車が氷にぶつかり、回転し始め、木に衝突し…覚えているのは、100mほど先のハイウェイに向かって這って行き、ようやく車が通りかかって止ってくれた事。

次に覚えているのは、救急車の中。目が覚めた時、そばにいた救急隊員に尋ねました。「妻の様子を教えてください。」彼は「大丈夫です。」と。

私は「いや、大丈夫じゃない。」と言い、それから、また言いました。

「いや、大丈夫だ。彼女は今、天国だから。」

すると、彼は私を見つめました。あの時の、あの目は一生忘れません。

彼は伝えてはいけない立場だったのだけど、それでも伝えることを選び、そして「あなたが言う通り、奥さんは、もうここにはいません。」

その瞬間、山から下りる途中のその救急車の中で、主が語りかけて下さったのです。

その時、私は20代後半。

私にははっきり聞こえたんです。よく分からないけど、それでも、はっきり聞こえたと思っています。

わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。

それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。

(エレミヤ書 29:11 新共同訳)

私は、それが聖書のみことばだとは知りませんでした。

今でこそ、ポスターや本や歌などありますが、もう何十年も前の昔のことで、当時の私はその聖句を知らなかったのです。

でも、それははっきりと聞こえて来て、今でも、本当に聞こえたと思っています。

やがて病院に着いて病室へ。そこにいたのは母と、一人の友達、そして副牧師のリック。

目覚めた私は言いました。「主が語って下さったんだ。うまく説明できないけど、神様はこう言ったよ。

“わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。”

(エレミヤ書 29:11 新共同訳)」

病室にいた3人にそれを伝えた瞬間に、電話が鳴りました。

電話はチャック・スミス牧師 (*Chuck Smith 1927-2013 カルバリー・チャペル コスタメサ主任牧師) からで、「ジョン、今、事故のことを聞いたよ。主が君に伝えろと言っていることがある。

“わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。” (エレミヤ書 29:11 新共同訳)」

私は本当に驚いてしまいました。

「それと全く同じ言葉を救急車の中で聞いて、たった今、それをみんなに言っていたんです。それは、聖書のみことばですか？」

「そうだよ。エレミヤ書 29章 11節だ。」と彼は言いました。

そこにいた人たちも、みなビックリです。

ちょうどそれを話していた時に、チャックからの電話だったから。

事故の翌日、私は子供たちを外に連れ出しました。

ピーターは5歳になったばかりで、ジェシーはもうすぐ3歳、クリスティーは1歳。

私たちはそこでキャンプをしていたので、海岸に彼らを連れて行き、砂浜を歩いて丸太に座りました。

そして、「みんな。しばらくママには会えないんだ。ママは天国に行ったんだよ。」

するとピーターが、彼は今では牧師ですが、「パパ、ほんと!? ママは飛べるの? ママには僕たちのことが見えるの? ママは何をしてるの?」(*笑)

3歳になろうとしていたジェシーは、大きな丸い目をして空を見上げ、「Oh, no... Oh, no... Oh, no... Oh, no.....」

そう言って涙を流した。私は胸に抱きしめました。

そこで3日ほど過ごして帰り、もう真夜中だったので、その翌日の日曜日、教会に伝えることにしました。説教をすることになっていたからです。

帰った日の朝、子供たちと家において、娘のオムツはもう3日も替えてなく(*笑)、色んなことが山積みで、ピーターとジェシー、クリスティーをお風呂に入れて寝かしつけ、そうして、ソファーに座って私は泣きました。

「どうしてですか? どうして?」

拳を振り上げて「なぜだ!?!」ではなくて、ただ「主よ、どうしてですか?」と。

私は泣き崩れました。

主がテリーを召した直後の日曜日。

私が説教することになっていて、その時、主が「ジョニー、(主は、私を“ジョニー”って呼ぶんです。(*笑)) ジョニー、わたしはあなたに、理解を超える平安を与えると約束したね。与えているかな?」「はい、主よ。ここ数日、理解をはるかに超える平安が与えられています。自分でも説明できないほどです。」

すると主は、「これからも、平安を頭で理解しようとしてはいけないよ。絶対に。わたしは理解をはるかに超える平安を与える。だから、頭で理解できる平安を、決して追い求めてはならない。」

なぜか? それは、主が私の疑問に答えたとしても、私は納得せず言い返すだろうから。

「でも、なんで?」「もし、たとえば?」

だから、主は言われるのです。

「あなたの小さな脳みそを通り越して、理解を超える平安を与える。」

頭で理解できる平安を、決して追い求めてはいけません。

それに伴って、議論を生むだけだから。

主は、ただ理解を超える平安を与えて下さいます。

私はダイアンに言いました。「ダイアン、主はそうして下さったんだ。」

「ちょちょちょ、ちょっと待って! それで3人の子供さんは...? もし神が優しいなら、どうして、良い人にそんなひどいことをするの?」

「ダイアン、答えはとても簡単さ。“なぜ神は、良い人をひどい目に遭わせるのか”

それは、良い人なんていないからだよ。僕らはみんな罪人、惨敗者、愚か者なんだ。」

聖書には、みんな罪人だと書いてある。“なぜ、良い人に悪いことが起こるのか”

それは、良い人なんていないから。本来の疑問は、“なぜ、悪い人に良いことが起こるのか” それこそが、真のミステリーだよ。」

「ダイアン、真実は、僕たちが良いから神が良くしてくれるんじゃない。僕らが良くないにもかかわらず、神は良くしてくれるんだ。そして、物事がバラバラに崩れてしまいそうな時、不思議な形で平安を与えてくれる。神は、同じものをあなたにも与えてくれるんだよ。」「私も欲しいわ。」「じゃあ、今ここで祈ろう。」そして彼女の手を取って、さっきも言ったように、彼女は私の席にはみ出していたから（*笑）、ソルトレークシティー周辺の上空 3000 フィートで私たちは祈りました。

「イエスが彼女の主となって心に入り、理解を超える平安を与えて下さるように。」

ダイアンは心を開いて赤ちゃんのように泣き、私は彼女が生まれ変わるのを見ました。

本当に、実に大きな誕生でした。（*爆笑）

彼女は生まれ変わり、王国の一員となったのです。びっくりする形で。

それからダイアンはボストンに帰り、現在、独身者のミニストリーに精力的に用いられています。彼女は成長してとても輝いている。

だけど、彼女と一体化できる体験が私になかったなら、このことは起こりませんでした。

ある人は離婚、ある人は経済的困難、また、子供の家出や病気など、この中だけでも、メルボルン、フロリダ、どこでも、誰かに共感できる経験が次々と出て来て、それぞれが言えるでしょう。

「私もその蛇に噛まれたことがある。」「同じ体験をしたよ。」「その痛み、分かるよ。」

ということで、私はその頃独り身で、家事なんか全然できないし、実際 3 年間は全く料理をせず、ポニーテールだかピッグテールだかなんだか、娘たちの髪も全然上手く結べない。ある日、遊びに来ていた父がそれを見て、「ジョン、再婚しないとな。」

私も「そうだね。本当にそうだ。」

そして、事故から 3 年後、主がとても美しい花嫁を与えてくれました。

私の妻、タミー、タンブルです。

「こんなに小さな町で、どうやってデートしてたんだ？」みんなが驚きました。

私たちの教会がある町はとても小さくて、一時停止の標識は一つだけ。食料品店も一軒、カフェも一軒、小さい学校が一つ、それと私たちの教会。

それで全部。それが町全体で地域全体です。

そんな所の教会に約 1 万人もの人がいて、問題は、とても小さな町の中のもっとも大きな教会。そういう状況で、どうやってデートしたのか。

教会中が見ていて、みんなに顔を知られている。デートはできませんでした。

それで、この結婚が主の計画だと思った時水面下でデートし、そうしてある日曜日、礼拝の後にこう言いました。「今夜の夕拝は是非来て下さい。」

私は普段そんなことは言わないから、その夜はみんなやって来ました。

礼拝堂に入ってみたら、木や色とりどりの照明、キャンドルライト等々きれいに飾られている。それからタキシードを着た人たちがいて、「一体何が起きるんだ？」

私はメッセージする時はいつも、ジーンズなどのカジュアルな格好をしているから、私がタキシードで登場

した時、みんなは「一体どうなってるんだっ!?!」

すると、ウェディングマーチが流れて来て、みんな「結婚式だ!」って気づきました。

ジョン牧師が結婚する! でも誰と!?! 誰も知らない! (*爆笑)

実際、子供たちにも前夜まで秘密にしていたのです。バラすといけないから。

だから誰も知らなかった。そして扉が開き、みんなが振り向くと、タミーです。

教会の人たちはみんなタミーが大好きで、彼女が歩いて来るとみんなが喜んで、拍手をしてくれました。

主は本当に私を祝福し、タミーと私に更にもう二人の子供を与えて下さいました。

メアリーとベンです。だから私には5人の子供たちがいて、本当に祝福です。本当に。

ある土曜日、すごく嬉しい事があって、心から喜びで満たされました。

私たちの教会の裏には、山の上に保養所があるのですが、ある時そこで修養会を開いたんです。現実から離れるにはもって来いのとても美しい場所で、主と話しながら山を登るのが恒例でした。毎週末、私はそこで教えていたのです。

あの日は黙示録でした。難しい書ではありませんよ。(笑い)

私はその週末、一日中黙示録を教えていて、午後の講義の後、一人ひとり外に出て、与えられた黙示録の箇所を読み、戻って来て、主がそれぞれに啓示して下さいたことを発表するようと言いました。

当時16歳のジェシーは毎週参加していたのですが、彼女が戻って来て、「お父さん、私は“7つの鉢の裁き”についての箇所だったの。気づいてた? 神がキリストを拒絶したこの世に与えた7つの鉢の裁きは、イエスが私たちの代わりに神の怒りを受けた十字架上で最後に言った7つの言葉と重なっているのよ。1番目の鉢は一つ目の言葉、2番目の鉢は二つ目の言葉、3番目の鉢は三つ目の言葉、4番目は四つ目…」

彼女は7つの鉢を、私たちの代わりに裁きを受けたキリストが十字架上で言った7つの最後の言葉に関連付けて話したんです。

それは、私には全く考えが及ばなかったことで、「これはすごい!」と言い、感激の内にその集会を終え、みんなが拍手をして帰って行きました。

その夜の夕食後、私はジェシー、クリスティーと一緒に座っていて、ピーターは別の部屋で私たちの話を聞いていました。

私は当時14歳のクリスティーと16歳のジェシーに、「二人とも、クリスマンと結婚するんじゃないよ。クリスマンと結婚しちゃダメだ。」「なにっ!?!」

「二人には、ただのクリスマンじゃなく、主に関してキミたち以上に信仰の強い男性と結婚して欲しいんだ。キミたちを主の道へ引っ張って行ける男性、ただのクリスマンでなく、キミたち以上に主を愛し、キミたち以上に強い信仰を持った男性と。」

ジェシーは我が家の聖書博士で、心底主を愛し、聖書預言が大好きでした。

その彼女が私の顔を見て、「パパ、そんな男性、どこにいるのよ!?! 良い教会に行ったら、もしかしたら見つかるかもね。」(*爆笑)

私は笑いました。ジェシーは、「どこに行けばそんな人見つかるの?」

私も笑って、みんなも笑って、ピーターも別の部屋で聞いて笑っていました。

そして月曜日の朝の礼拝。私たちの教会は毎朝、聖餐式を行っています。

6時から7時半、人々が出入りし、主を礼拝し、祈り、聖餐式を行う素晴らしい時間。

その日、ジェシーはいつものように3番目の席に、私はずっと後ろの席に座っていて、共に主を賛美していました。

その朝は、妻のテリーが召された時、病室にいてくれたリックが説教をしていたのですが、突然話を止めて「祈りを捧げたい人は、どうぞ今お祈り下さい。」と言いました。

すると、ジェシーが立ち上がり、こう祈ったのです。

「主よ、あなたの約束に感謝します。特にこの約束…

“わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。”

(エレミヤ書 29:11 新共同訳)

イエス様、ありがとうございます。」

そして彼女は「アーメン」と言って席を立ち、外に向かって通路を歩いて行き、私の横を通り過ぎる時にウィンクしてくれ、私は親指を立てました。

リックは私を見ていて、私はリックを見た。

ジェシーはその聖句の話を一度も聞いたことがありません。

私は公にその話をしたことがなかったから、ジェシーは知らない。

でもリックは、あの時私が病室で話し、チャックが電話で言った時にそこにいたから知っていて、その聖句が私にとって何を意味するのか分かっていました。

彼はその場で歌を作り、それは今でもラジオで流れています。

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っている。(エレミヤ書 29:11)

私は神の祝福をかみしめて感謝していました。

「主よ、あなたは私に将来と希望を与えて下さいました。娘、子供たち全員があなたを心から愛し、全力であなたに仕えると決心し望んでいます。」

修養会でのジェシーやその他全てを思い出して、そしてジェシーがささげたあの祈りを聞いて、ただ何度も何度も主に感謝をささげていたのです。

8分ほどして誰かが私の肩を叩きました。

副牧師の一人が来て「ジョン、外に来て下さい。」

「そこで事故が起きました。黄色のフォルクスワーゲンです。」

私は言いました。「そんなはずがない。娘は黄色のフォルクスワーゲンに乗っている。」

でも、もう、その体験はしたんだ。そんなはずがない。」

「ジョン、行って確認して下さい。」

私は車に飛び乗り、丘を駆け下り、目的地へと向かいました。

フォルクスワーゲンが目撃された現場への道の途中に私の家があり、家の前に車を止めると当時18歳だったピーター・ジョンが出て来て、「お父さん！ お父さん！ あいつ、見つけたよ。 あいつ、見つけたんだ！」

ピーターが言っていることが、私には分かりました。

「そんな男性、どこにいるの？」

ジェシーが前日に言っていたこと。そう、彼女は見つけたのです。

800mほど先に、衝突した彼女のフォルクスワーゲンがありました。

私たちが行った時は、ちょうどその車が動かされているところで、ジェシーは母親と同じ頭の箇所を打って、母親と全く同じ形で召されていました。

ジェシーが最後にみんなに伝えた言葉。

“わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。”

(エレミヤ書 29:11 新共同訳)

人々は言うてくれました。「娘さんを失くされてお気の毒です。」

私はこう言いました。「ありがとうございます。だけど、娘を失くしてはいません。」

私は彼女がどこにいるのか、はっきりと分かっていますから。」

それから葬送式をしましたが、葬送式と言うよりも結婚式でした。

娘は見つけたのです。彼女の心を傷つけて去って行くような男に会うこともなく、病魔が体をむしばむ経験もせず、自分より先に我が子が逝くのも見ることもなく。

ジェシーは天国にいます。天国です。彼を見つけて一緒にいます。娘は彼の花嫁です。

娘は全うしました。準備ができていたのです。彼女は主を心底愛していました。

それから数か月後、妻と私は郵便局へ行きました。私の町では郵便配達はなく、自分で取りに行くのです。郵便箱を覗くと一通の手紙があって、ジェシーからでした。

3か月前に天国に行ったジェシーからの手紙。

私たちはベンチに座ってその手紙を開封しました。

それは、ユースの牧師たちが、去年の初めに高校生に書かせた、今年目標を手紙にしたもので、何百通もの手紙が大きな郵便袋に入れられ、まとめて郵便局に保管されていたのです。ジェシーのもあったのですが、彼女も誰もそれらの中から取り出そうとは思いませんでした。そして新年が始まって各郵便箱に入れられたのです。

手紙には“来たる新年”とあり、「新しい年に何を期待しますか」などたくさんの質問がありました。しかし、ジェシーが答えていたのはたった一つの質問だけ。

彼女は成績優秀、チアリーダーのキャプテンで知能も高い素晴らしい女の子、素晴らしい女性です。誰に似たのか分かりませんが。

話し出したら何時間でも話すことができ、文章を書けばいくらでも書くことができました。一体誰に似たんだか。(爆笑)

そんな彼女が用紙のほとんどを白紙で出し、答えたのは最初の一つだけ。

それ以外は表も裏も白紙のまま。

「来る年、何を期待しますか？ その理由は？」

「天国へ行きたい●●●」

たくさんの質問の中でそれだけを書いていたのです。

彼女は聖書預言が大好きで携挙を楽しみにし、主のそばに行くことを切望していました。

「今日か明日、主が帰って来られるかもしれない！」
 いつも永遠に目を向けていたので、他の質問は関係なかった。だから白紙。
 そして、天国へ行きました。
 私はそれを読み、タミーもそれを読み、私たちは泣きました。
 「ジェシーはそこにいる。天国に。主と共に天国にいるんだ。」

つまり、こういうことです。

どうして主は、蛇が噛みつくのを、嵐が起き、炎で焼かれることを許されるのか。

それは、一体化できるようになるため。

今は私も、子供が先に天国に行った親たちと心を交えて話ができます。

自分と重ね合わせて共感できるから。

私も一人で子供を育てたから、離婚であれ死別であれ、一人で子育てをする気持ちが分かります。

以前は絶対にできなかった形で、今は話し共感することができるのです。本当です。

手短に、どうして主は、あなたや私にこんなことが起こるのを許されるのか。

『観察』“島の人々”が見ています。

『目的地』魚は動いています。

『一体化』あなたがその人に心から寄り添わない限り、どんなに知識を持っていても意味がない。あなた自身がその立場にならない限り、心から寄り添うことはできません。

これ、本当です。もうすぐ終わります。

パートIV LIBERATION『解放』& REVELATION『啓示』

4番目の理由は、LIBELATION『解放』

「なんでこんなことが起こるんだ！」

火の中から蛇が飛び出してきた時、パウロはそう言いたかったでしょう。

解放！ 解放です。

“火の試練” シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴに聞いてみて下さい。

この話をご存知ですね。

彼らは縛られて、火の燃える炉の中に投げ込まれました。

炉がものすごく熱かったので、彼らを連れて来た者たちは、その火炎に焼き殺されたのです。

(ダニエル書 3:21-22)

しかし、放り込まれた彼らは、ご存知の通り、火で焼かれていませんでした。

頭の毛も焦げず、火の臭いもしませんでした。(ダニエル書 3:27) ビックリです。

唯一、火で焼かれたものは、彼らを縛っていた“ひも”。

ひもは燃え落ち、彼らは燃える火の中を歩いていたのです。

ひもは燃え落ちました。すごいことです。

さて、いいですか。どうして、炎の試練が襲って来るのか。

「クビだ！」「彼女が怒らせたんだ！」

どうして、こんなことが起こるのか。それは、私たちが自由にするため。

初めは、「なんてこった。」と思うでしょう。
しかし、最後には「何という祝福！」と言うのです。

私の初めての新車は、教会の人たちが買ってくれたホンダシビックのワゴン。
色はオレンジ。人生初の新車です。

誰にも傷つけられないように、大きな町の店に行った時には、入口から3.2 kmほど離れた所に駐車しました。絶対に誰にも傷つけられないように。

車をもらってから2週間後の日曜日、教会の駐車場に車を止めました。

すると、副牧師が隣に止めて、「へイ、ジョン！」と言いながら運転席のドアを開けたら、それが私の車にぶつかってへこんでしまった。

私が車から降りると、彼はショックを隠し切れず「ジョン、本当に申し訳ない。」

私はへこみを見て、彼を見、へこみを、彼を…（*爆笑）

彼はとても申し訳なさそうな顔をしていたので、「大丈夫！ 気にしなくていいよ！ これで、どこにでも駐車できる。自由だ!!!」（*爆笑、拍手）これは事実です。

私たちは「なんてこった!!!」と思います。でも、そうではない。

最初は、彼や彼女やその人がとんでもないことをしたと思うのですが、実際は、そのことであなたが解放されるのです。自由になる。

ひもは燃え落ちる。

もうダメだと思えるような炎が、実際には私を解放してくれるのです。

5番目の理由は、REVELATION『啓示』

これで最後です。

私にとって一番重要なこと。「啓示」

第1は観察

第2は目的地

第3は一体化

第4は解放

ひもが燃えたことは、私たちが聞いて知っていました。でも、良いことを教えましょう。

それまでは考えもしなかったことです。

日曜日の朝、私は、4歳のジェシーが礼拝に着ていくドレスにアイロンをかけながら、その日の説教を考えていました。

シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ。それと燃える炉。

それらを考えていた私は自分の手元を見てなくて。

そしたら、ドレスのレースから煙が上がり始め火が点いた。大変です！

シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴについて考えていたら、目の前に炎が広がった。

（*爆笑）それはもう、大変!!

その時突然、そこから主が語りかけて下さったのです。驚きです。

こんなの、それまで見たこともありませんでした。

「この光景、今日の説教にピッタリだ！」

啓示。

シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは火の中を歩き回っていました。彼らは自由。

彼らを火の中に放り込ませたネブカデネザル王は中を見て、「炎の中に何人放り込んだんだ!?!」 顧問たちは「3人です。ネブ様。」(*笑)

すると王は「私には4人見える！ しかも第4の者は…神々の子のようだ。」(ダニエル書 3:24-25)

ご存知の通り、主は燃える炎の中で彼らと共におられました。

そして、炎の中を主と共に歩いていたシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、ネブカデネザル王が「出て来なさい。」と言うまでその中にいたのです。

このことを、それまで考えたこともありませんでした。

彼らはいつでも炉の外に出ることができました。

出たとしても、誰も中に押し戻しはしなかったでしょう。

はじめに彼らを炎の中に投げ入れた者たちは、もう死んでしまっているし。(ダニエル書 3:22)

それに、そんな炎の中を神々の子と共に歩いている彼らが外に出ようとした時には、みんなが紅海のように分かれて道を開けるでしょう。

しかし、彼らは出ませんでした。出て来なかった。

ネブカデネザル王が出て来いというまで出て来なかった。なぜか。

全てがステキで愉快的な王宮で、キリストの啓示なしでいるよりも、彼らはむしろ、イエス・キリストの啓示と共に、炎の中にいることを望んだのです。

兄弟たち、今日、私は真実を伝えるために来ました。

人々は言うでしょう。「ジョン、どこでそんなことを知るのです？」

皆さんは分かりますね。私たちは炎の中でそれを知る。

その中で、主を最も明確に見るのです。

と言っても、主はいつもそばにいます。誤解しないで下さい。

問題は、私たちは、全てが愉快で順調に行っている時は、焼かれる試練の中にいる時のようには主を求めないということです。

炎の中にいる時、その時に、私は主の啓示を見るのです。

私も皆さん同様、ようやく分かり始めました。

「主よ、私を火の中に置いて下さい。私は、困難はなくてもあなたをはっきり見ることができない所にいるよりも、むしろ、あなたの御声を聞き、あなたの臨在を感じ、あなたの御顔が見える炎の中にいることを望みます。」

「主よ、私はあなたと共に炎の中にいる方がより満たされ、更に目的が成就され、もっとワクワクすることができるのです。“クール”(カッコイイ) 外の世界では、あなたをそんな風に知ることはできないから。」

啓示。

「事故が起きました。」と警察から電話があったのは、数年前の父の日。

当時 20 代前半のピーター・ジョンと 20 歳のクリスティーが、父の日の午後にピザを買いに行く途中のことでした。

「大破しました。」と警察は言い、私が聞いたのはそれだけです。

場所を聞いて車に飛び乗り、二人が乗っていたクリスティーの車が、パンケーキのようにぺっちゃんこになっているのを見ました。

トラックが、交差点で、二人が乗った小さなスズキにぶつかり押し潰したのです。横に寄せることもできず、トラックの荷台に上げられ、二度と走る事はできない状態でした。

しかし、私は子供たちに会うことができました。

二人は車の柔らかい天井部分から脱出し、打撲はありましたが無事で、カーブの所に座っていたのです。

私が今、このことをお話する理由はこれです。

パンケーキのように完全に押し潰されて廃車になった車は、妻のテリーと娘のジェシーのお墓の後ろの門に激突していました。

そこに到着した私は「これは、一体どういうことだ？」と思いました。

他にも事故が起きそうな場所はたくさんあるのに、クリスティーの車は妻と娘の体があるそのお墓のその門に激突した。

そのところで主は私の心に再び語り、重要な啓示を与えて下さいました。

今日は時間もないので、ここでお話しできませんが、しかし大事なことはこれです。

蛇が噛みつき、嵐が襲い、炎が燃え上がるような事が起こるのにもその時がある。

それを主はご存知です。

主の声を聞き、主に目を向け、主と親密な時間を持ちましょう。

兄弟たち、聞いて下さい。よく聞いて下さい。

皆さんがここを去る時に覚えておくべきこと、本当に大切なことはこれです。

「主よ、私のいのちを輝かせて下さい。」素晴らしい。

しかし、蛇があなたを襲うでしょう。

その時は心配しないで、ただ振り払いなさい。振り払うのです。

それには理由があるから。

1. “島の人々” 偶像礼拝者が見ています。「観察」
2. クジラは動いています。「新しい目的地」
3. あなたにどれほど知識があっても、心がなければ意味がない。
あなたにその経験がなければ、人を慰めることはできません。「一体化」
4. 炎の試練はあなたを自由にします。「解放」
5. 炎の試練に直面する度に、火が、嵐が、蛇が襲うその度に、あなたは新しい啓示を受けるでしょう。

「啓示」

あなたの光を明るく輝かせなさい。

そして、敵が攻撃してきた時は、パウロが示してくれた通りにするのです。

振り払う！ 振り払え！ 振り払おう！

主があなたを大いなる形で使って下さいます。

あなたが手にする成功だけでなく、あなたが試練を乗り越えるのを見た時に、人々は最も衝撃的な形で影響を受けるのですから。

主を信頼して振り払いましょう。

祈りましょう。

父よ。この兄弟たちが帰路に着くにあたり、嵐や炎の試練、蛇の攻撃に驚くのではなく、あなたご自身を本当に見出すことができますように。

私たちを通して、私たちの中に主が住まわれることを他の人が見、その事によって彼らが主イエス・キリスト、あなたに近づきますように。

ああ、父よ。あなたを信頼します。

苦難に直面する時もあなたが共にいて下さり、私たちを用いたいと思って下さることを知っていますから。

そしてそのことが、あなたの御子、救い主イエスに栄光をもたらすことも知っています。

だから主よ、今私たちはここへ来て、あなたの食卓に着きます。

自分に死に、あなたの体を食べ、あなたの血を飲みます。

主よ、あなたが私たちの中で働かれることを切望します。

私たちがこれから直面することもあなたをご覧になり、私たちを整え育てて下さいます。

父よ、この時を祝福して下さい。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン